

プロジェクト課題活動実績（令和7年度）

課 題 名：岩国れんこん振興協議会を核とした岩国れんこん産地強化

所 属 名：岩国農林水産事務所農業部

チーム員：杉山久枝、中野良正、増富義治、安本珠緒、市川結菜

＜活動事例の要旨＞

岩国れんこん振興協議会の会員同士のコミュニケーションを図るきっかけ作りとして、振興大会、出荷式、イベントでの販売促進に係る活動支援を行った。

研修会や栽培技術情報紙の発信等によりれんこんの栽培技術の習得・向上を図った。また、担い手確保に向けた取組として、「募集～事前説明会（面談）～研修～面談」の一連の流れを実施して短期研修体制を構築した。

1 普及活動の課題・目標

岩国市のれんこんの栽培は、江戸時代に始まり、昭和47年に栽培面積が最大となって以降は、農家の高齢化や農地の市街化等により減少し、産地の衰退が懸念される。

このような中、生産者、流通・加工関係者、関係機関で構成される「岩国れんこん振興協議会」（以下「協議会」）では、産地ビジョンに沿って販売、生産、担い手に係る活動をしているが、協議会活動に対し、会員の関わりは限定的となっている。

現在の主な問題点として、販売面では、産地が一体となって統一的な販売がされていないこと。栽培面では、近年の異常気象、病害や鳥獣害により収量が不安定なうえ、各農家が独自の方法で栽培しているため、産地として栽培管理は統一されてなく、品質のバラツキが懸念されることがあげられる。また、令和4年度に行ったアンケートで、れんこん農家の平均年齢は70歳で、70歳以上は約67%を占め、「継ぐか不明」＋「後継者はいない」の世帯は約66%となっており、高齢化による担い手不足の進行が確認されている。

そこで、協議会が核となって、会員同士のコミュニケーションのきっかけを作ることにより、岩国れんこん産地の一体感の醸成を図りつつ、生産、販売、担い手に係る課題解決に取り組むことで、持続可能な岩国れんこん産地強化を図る。

2 普及活動の内容

（1）岩国れんこん振興協議会一体感の醸成・活動の活性化

ア 岩国れんこん振興協議会運営支援

- ・担当者間で年間活動スケジュールを共有し、振興大会、出荷式、イベントでの販売促進活動に向けて協議した。
- ・各活動後は、活動の反省と課題を整理した。
- ・次年度の振興大会開催に向けて協議した。

イ 会員間コミュニケーションの活性化活動の運営支援

- ・振興大会、出荷式、イベントでの販促活動について、準備から当日の対応支援を行った。

（2）「岩国れんこん」の安定生産・経営の安定化

ア れんこん栽培技術の習得・向上支援

（ア）技術習得・向上のための研修会

- ・協議会生産技術部会で研修会の内容について協議した。

- ・機械メンテナンス研修会及びれんこん栽培研修会を開催した。
- ・れんこん栽培研修会の開催予告を数か月前から行い、参加誘導を図った。
- (イ) 適期管理のための栽培技術情報紙
 - ・4月から7月に栽培技術情報紙を月1回作成し、発信した。
- (ウ) 栽培技術の高位平準化のための栽培指針
 - ・栽培指針の改訂に向けて過去の技術資料を整理し、写真等のデータを収集した。
 - ・協議会生産技術部会で栽培指針改訂について協議した。
 - ・尾津地区における圃場管理の暗黙ルールをれんこん生産者から聞き取り、整理した。
- イ コスト低減対策の検討
 - ・肥料試験の実証圃を設置し、局所施肥及び気象や生育に応じた追肥の効果検討を行った。
 - ・肥料試験結果は、2月のれんこん栽培研修会で情報提供した。
- (3) 担い手確保・育成
 - ア 新規就農者受入体制整備
 - (ア) 園芸作戦会議における担い手確保
 - ・関係機関が連携して取り組むために役割分担を明確化し、目標及び活動スケジュールの共通認識を図った。目標である「短期研修受入体制整備」については、短期研修の仕組み作りを協議した。
 - ・短期研修の募集活動は、岩国市担い手育成総合支援協議会と連携して取り組んだ。
 - ・受入農家の選定や研修生の受入基準などは、園芸作戦会議で協議し、協議会生産技術部会の合意を図りながら決定した。
 - (イ) 研修体制の仕組み作りと運営
 - ・れんこんの担い手対策を協議会生産技術部会の活動に位置付け、部会開催時には短期研修の経過を報告し、情報を共有した。
 - ・受入農家4名を選定し、短期研修受入条件を聞き取り、短期研修の受入要件を整理した。
 - ・短期研修募集開始前に、受入農家へ短期研修の進め方や留意点を説明し、短期研修運営の協力依頼するとともに、担い手確保に向けた意識醸成を図った。
 - ・短期研修希望者は、事前説明会参加を必須とし、就農までの流れ、産地概要、れんこん栽培等の説明及び面談、圃場見学を行った。
 - ・協議会としてやまぐち農林振興公社事業のビギナー農業体験農場へ登録し、研修生1名が受入農家2名のもとで短期研修を実施した。
 - ・短期研修実施後は、研修生及び受入農家から、別々に研修の感想や今後の取り組み意向等を聞き取った。
 - ・農業大学校園芸学科野菜経営コース1年生を対象にれんこんの講義及び現地実習を行い、アンケートによりれんこんへの興味関心を確認した。

3 普及活動の成果

- (1) 岩国れんこん振興協議会一体感の醸成・活動の活性化
 - ア 岩国れんこん振興協議会運営支援
 - ・担当者間で年間活動スケジュールを共有でき、役割分担をして活動できた。
 - ・活動後は活動の反省点と課題を担当者間で共有し、次年度活動に向けた対策を整理できた。

- ・次年度の振興大会開催に向けた協議を開始し、振興大会概要及び総会との同日開催が決定した。

イ 会員間コミュニケーションの活性化活動の運営支援

- ・振興大会を総会と同日に開催し、「農産物のブランド化」をテーマに講演が行われた。
- ・振興大会の参加者は 17 名と少なく、その多くは JA 関連の生産者で、流通関係者は少なかったが、振興大会に係るアンケートでは今後も開催を希望する者が多かった。
- ・イベントでの販売促進活動では、生産者、加工・流通関係者、関係機関の 3 者が協力して実施できた。



れんこん振興大会



れんこんの販売促進活動

(2) 「岩国れんこん」の安定生産・経営の安定化

ア れんこん栽培技術の習得・向上支援

(ア) 技術習得・向上のための研修会

- ・機械メンテナンス研修会は 18 名、れんこん栽培研修会は 22 名が参加した。
- ・研修会後のアンケートでは、参加者のほとんどが「今後の営農に役立つ内容」と回答され、好評であった。



機械メンテナンス研修会



れんこん栽培研修会

(イ) 適期管理のための栽培技術情報紙

- ・天候に応じた追肥管理を実行した生産者が多く、栽培技術情報紙が活用されていることが示唆された。
- ・栽培技術情報紙は、特に新規栽培者や栽培して間もない生産者の拠り所となり、JA 営農指導員の指導資料として活用された。

(ウ) 栽培技術の高位平準化のための栽培指針

- ・令和9年度の栽培指針改訂に向けて掲載内容を整理していく方向となった。
- ・過去の技術資料や写真等のデータを収集でき、現行の栽培指針の修正を開始した。
- ・尾津地区における水や畦畔の圃場管理における暗黙ルールを整理できた。

イ コスト低減対策の検討

- ・緩効性肥料を単肥にし、早期追肥を局所施肥することで収量は維持しつつ肥料費を低減できた。

(3) 担い手確保・育成

ア 新規就農者受入体制整備

(ア) 園芸作戦会議における担い手確保

- ・関係機関の役割分担を明確にでき、共通の目標をもって短期研修の仕組み作りの協議を行うことができた。
- ・協議会生産技術部会とも合意を図りながら短期研修の仕組み作りを進めることができた。

(イ) 研修体制の仕組み作りと運営

- ・短期研修や農業大学校での授業を協議会生産技術部会の活動として位置付けることができ、部会員が担い手対策の必要性を意識し始めた。
- ・2名の研修農家が短期研修を受け入れ、短期研修受入の経験ができた。
- ・「募集～事前説明会（面談）～研修～面談」の一連の流れを実施して短期研修体制を構築した。
- ・農業大学校での授業では、参加した学生はれんこんへの興味関心は全員が高まり、れんこん栽培や就農に興味を示した学生もいた。



短期研修事前説明会



短期研修（れんこん掘りとり）



農業大学校での授業



農大生れんこん掘りとり実習

4 今後の普及活動に向けて

(1) 岩国れんこん振興協議会一体感の醸成・活動の活性化

ア 岩国れんこん振興協議会運営支援

会員同士のコミュニケーションを図れるような活動を企画する。

イ 会員間コミュニケーションの活性化活動の運営支援

振興大会、出荷式、イベントでの販促等の各活動に係る運営を支援する。

(2) 「岩国れんこん」の安定生産・経営の安定化

ア れんこん栽培技術の習得・向上支援

(ア) 技術習得・向上のための研修会

機械メンテナンスやれんこん栽培に係る研修会を開催し、れんこんの栽培技術の習得・向上を図る。

(イ) 適期管理のための栽培技術情報紙

栽培技術情報紙の発信により適期管理の指導を行う。

(ウ) 栽培技術の高位平準化のための栽培指針

令和9年度の改訂に向けて栽培指針を修正する。

イ コスト低減対策の検討

肥料費低減に係る肥料試験結果を栽培指針に反映させる。

(3) 担い手確保・育成

ア 新規就農者受入体制整備

(ア) 園芸作戦会議における担い手確保

- ・短期研修希望者は3名と少なく、本格的な就農に結び付かなかったため短期研修募集の強化を図るとともに、長期研修受入体制整備や農地確保の協議を行う。
- ・短期研修希望者の掘り起こしのため、れんこんのお試し体験を企画する。

(イ) 研修体制の仕組み作りと運営

- ・引き続き生産技術部会の活動として担い手対策を位置付けて、短期研修やお試し体験の実施支援及び担い手確保に向けた意識醸成を図る。
- ・生産技術部会だけでなく、振興大会等で協議会全体へ担い手確保に向けた意識醸成を図る。
- ・農業大学校の授業を通して農大生にれんこんへの興味・関心を持ってもらう。